

雨華雪



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

使用上のご注意

当作品は上海アリス幻楽団様の作品、人物などの二次創作です。厳密に原作の設定を再現しているわけではございませんので、そういった作品に合わない方にはおすすりめできません。

また、成年向けの描写がございますので18歳未満の方のご購入はご遠慮願います。同様に、未成年のご家族、彼女、嫁などの手の届かない場所に保管してください。

ご閲覧後のキャラクターのイメージ崩壊などの被害に関しましては、当方は保障いたしかねますので、自己責任でよろしくお願いいたします。

それでは、上記を踏まえた上でお楽しみください。



幻想郷にまた雪が降る

湖を覆う霧は
冬の訪れと共に晴れ

その時になって
初めて

その界限で水妖や
妖精の過度の悪戯の
犠牲となった者の
亡骸を晒すのだ

アハハ

その湖には

アハハ

一人の
氷の妖精が
棲んでいた

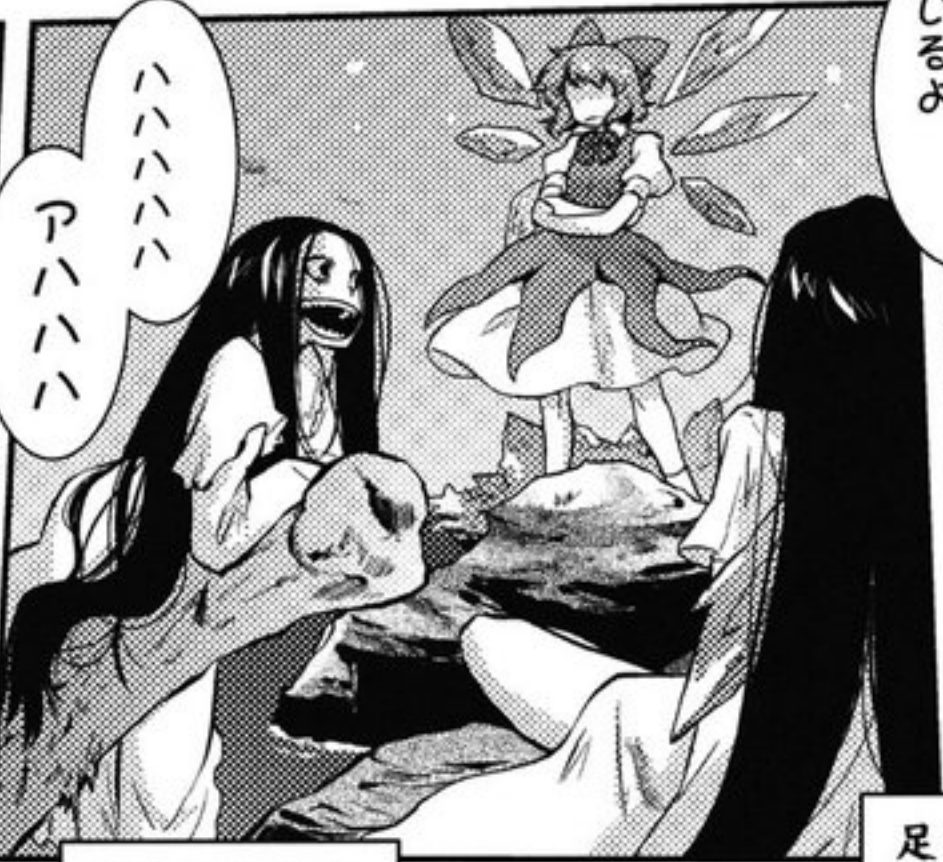




キルノだ



レーシー
いつ這い出て
来たのさ



ハハハハ
アハハハ



キルノだ
またここに
いるよ
またここに
いる

そして彼女の力が
最大限発揮される
冬の訪れと共に
楔を解かれた様に
湖から幻想郷中を
飛び回るのだ

彼女は時折
他の池や野山
そして稀に人里へ
足を伸ばすが

普段はこの
霧の湖にいる



もう
そんな季節に
なったのね



ハハハハ

しっ
しっ



さあな
でも
いたたら
めつけも
ん
だろよ

あの小島か?
本当に
いるのかね



小船だけだよ
今日は霧も
薄いからいける
だろ



おい船に
なんかいるぞ
ありやよく
村に悪さしに来る
ヤツじゃないか?



氷の妖のクセに
このクソ暑い中
調子にのるからだ

ははっ
昨日こっぴどく
黒い小娘に
してやられたって
聞いたぞ

うるさい
人間
とつとつと
帰れよ

なんだとお？

おい
気をつけろ

触っただけで
凍傷になるって
話だぞ

大丈夫
みただぞ
このまま
船出せ

熱気と
昨日ので
弱って
みてえだ

ああくそ
身体が
だるい

面倒くさい
なあ



ちよっと
押さえてろ

おいおい
まだガキ
だろ...



見た目はな

もし向こうに
いなくてもよ

人間じゃねえに
してもこんな
ちいせえ孔に
つつこめる機会
なんぞ

そうは
ねえからな



なるほど
そういう
手合か

これだから
でかい人間は
好きになれない

こいつなんて
睡で十分：
後は無理矢理
ねじ込んで
やりやいだろ

もし壊れても
：最悪死んでも
だれにも咎め
られねえってか

お通しにしちや
気が利いてる
だろ？

お前らが
そんなだから
みんな加減を
しないんだ

おほっ
狭いしキツイし
ひんやりして

たまんねえな





クッッ
クッッ
吐きやがった

この時期やるには最高の孔だぞ



この分じやあすこの雌もかなり期待できそうだな

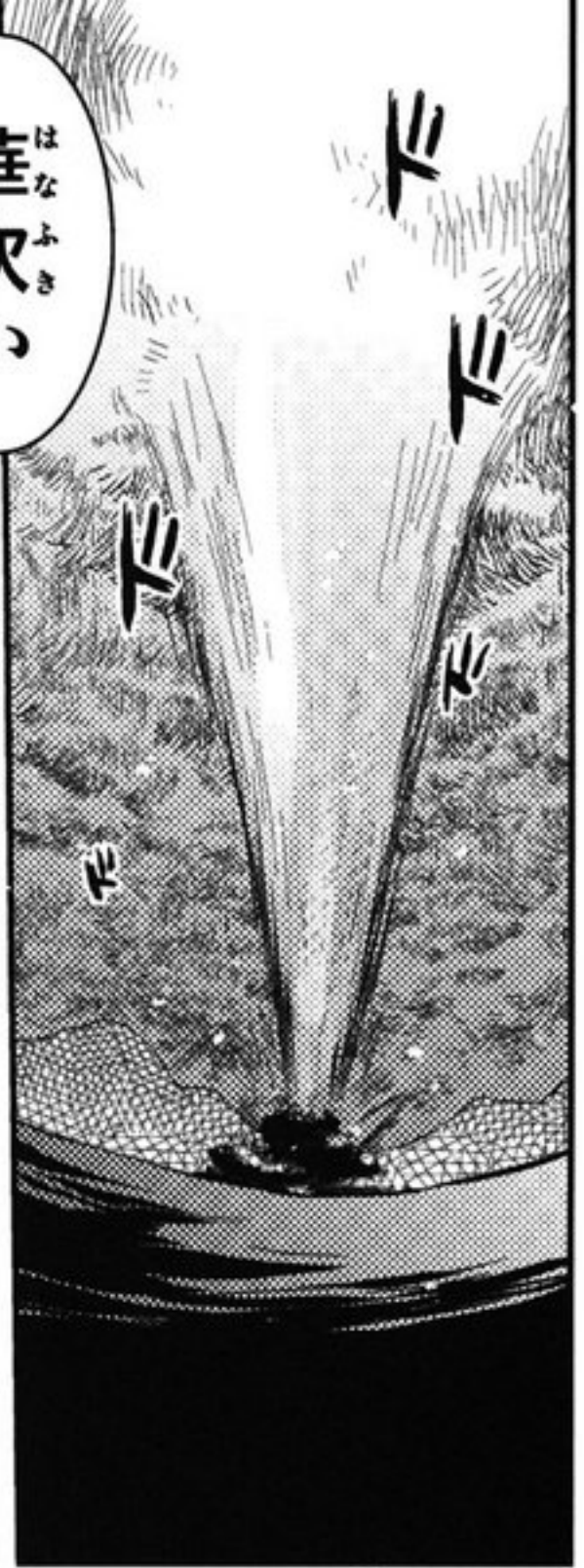


ジュン

なのか



はなふき
華吹か



そろそろ
だとは思って
いたけど

こんな近くで
見たのは初めて
だな

魔理沙



あたしは



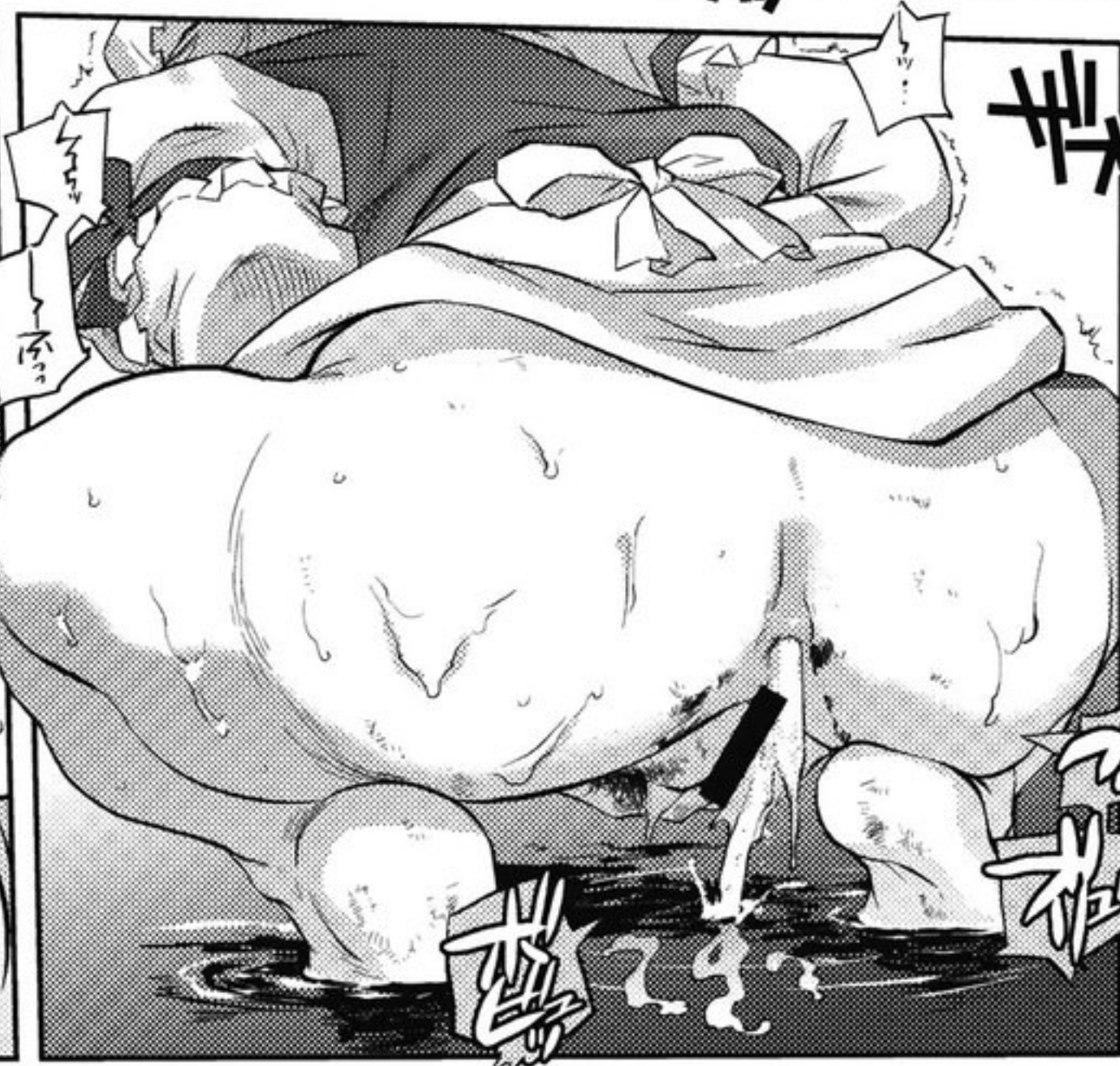
あいつが
嫌いだ



妻の心葉雨

そうかい





みつともない所
見られちゃったね

雪女がこんな
陽気に出歩くから
そんな目に
あうんだ

里外れの与太者
なんかは特に
物の怪を敵視して
るもんだからね

あはは…

ここにきて
間もない
けれど

幻想郷の人間は
物の怪への知識も
対処も心得たもの
なのだと驚くわ

まるで
人事

あたしにや
関係ないし
どうでも
いいけどね

だからみんな
得体の妖怪を
新顔の妖怪を
過剰に警戒したし

レティが雪の妖
だと知るやいなや
ほとんど力の無い
夏場なんかは

あの頃のレティは
森や山に棲むわけ
でもなく

集落に溶け込む
でもなくただ
遠巻きに
人を見ていた

あいつを見かけた
若い男が体のいい
鬱憤晴らしに
使っていた

あいつが冬しか
姿を見せなく
なったのも
解るな

そんなことが
続いたんじや

でもあいつは
言うんだ

それでも
私は

人恋しい

——
ってさ
バカじゃ
ない？

お前に言われると
立つ瀬が
ないだらうな

ま
雪女ってのは
情に厚いって
いうからな

うう
さつぶ…

…いまや幻想郷の
冬の訪れを知らせる
雪の大間欠泉

あれが出ると
さすがに急に
冷え込むな

でも
さすがに
嫌になったのか
あまり人里に
現れなくなつて

薄暗い山から
遠巻きに眺める
ようになった



何年も
何年も

そんななか
嫌になるほど
暑い年が
あつてね



あつれえ
いないな
普段はここらで
物欲しそーに
里を眺めてた
もんだけど

ああくそ
飛ぶのも
だるいなー



さすがの
あたしも
辛くてさ
ちよつと作戦を
思いついてレティを
訪ねた日の事さ

あ
れ？



あいつ
久しぶりに
里に降りた
のか





条件があるよ



……
しょうがない
ただし

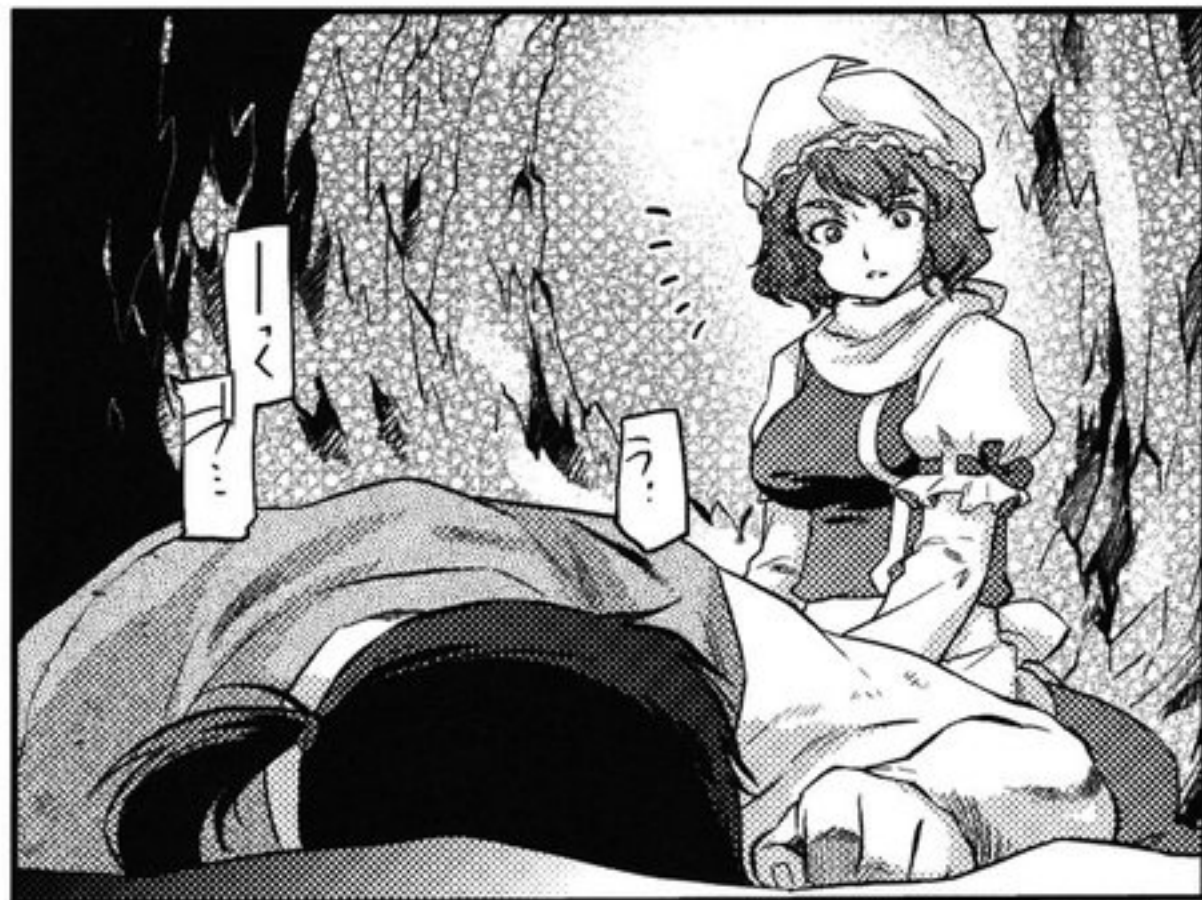


奥だとそれなりに
ひんやりしてる
から……



この湖はまあ
比較的涼しい
んだよね
あすこに縦穴から
奥に通じる小さな
洞窟があるんだ





あれ

俺は…えっと
たしか畑で
暑くて…
倒れて…

…てえか…
ここは…?

ずいぶん
涼しいけど

う
ガッ



うえっ!?



あつ
あのっ…
大丈夫
で…うわ

冷たっ



でも

綺麗な肌…
白くて…
まるで雪…

きつと
この人が僕を
介抱して
くれたんだな



…身体から
ほのかに寒気
が出てるし…

変わった色の
髪の毛…きつと
なんだかの物の怪







ごめんなさい
ごめんなさい

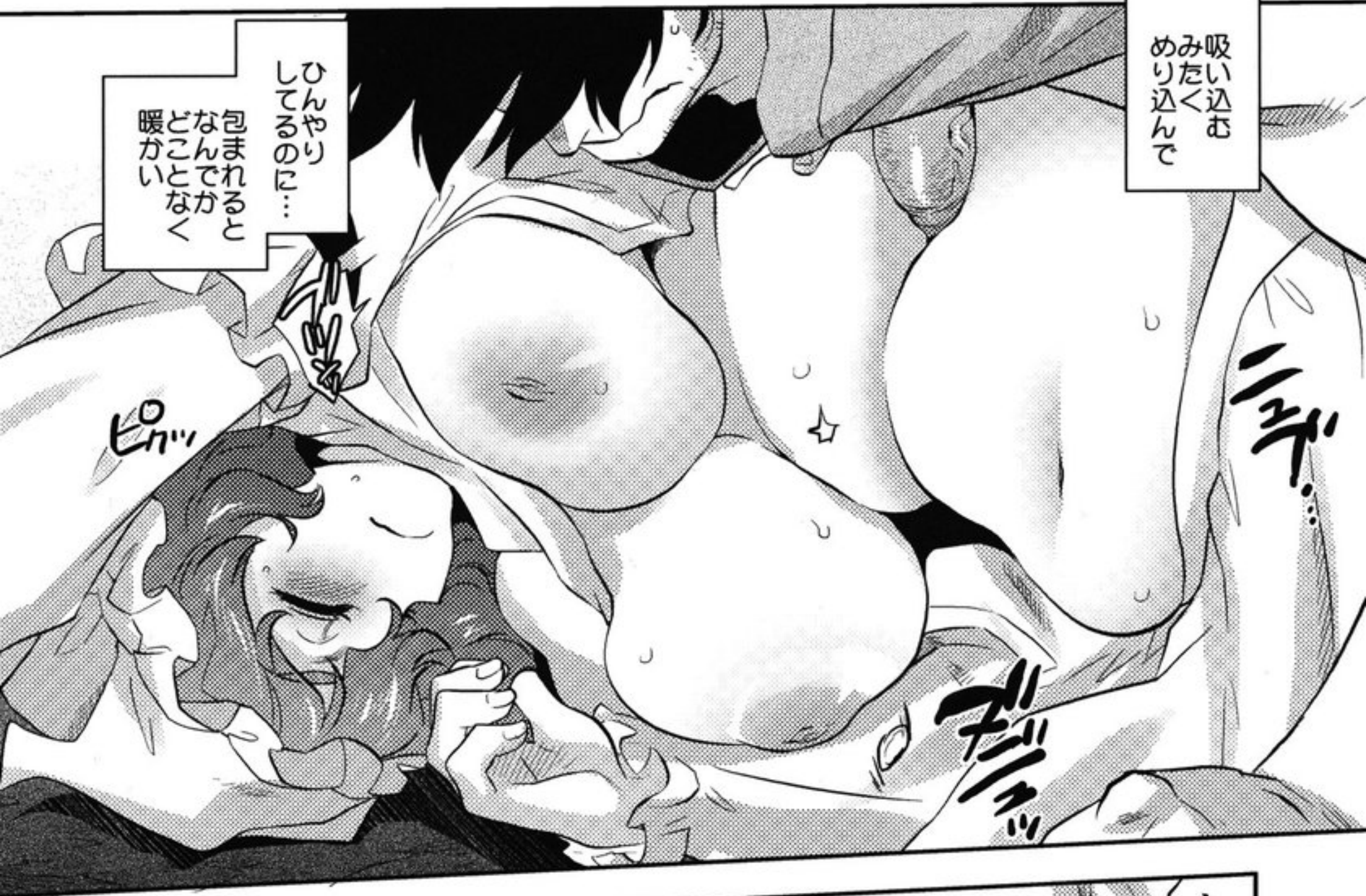
少し…
少しだけ…



気持ちいい…



う…わ



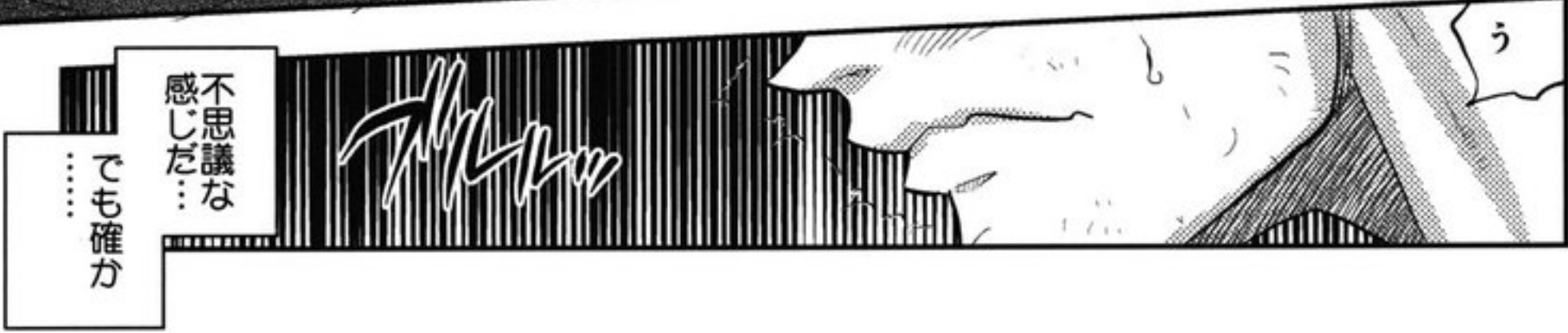
吸い込む
めり込んで

包まれると
なんでもなく
暖かい

ひんやり
してるのに…

ヒン

ヒン



う

不思議な
感じだ…

でも確か



ごめんなさい!
あんまり綺麗で
気持ちよくて

それでっ
そのっ
たっ

助けてくれた
のに恩を仇で
返すみたいなの...

ごめんなさい...

惹かれて
くれたんだね

私のように

優しくして
いいやらしい
匂い

あなたの
気持ちの
詰まってる
みたい

気がついて
るんでしょ?
私が物の怪の
類だって事

そんな
口で...

なんっ
...って

雪女はね

ちゅるん

人が恋しい
妖怪なの

ちゅるん

優しく
されたいよ
妖怪なのよ

だから解るの

心の匂いを
嗅ぎわかる

だから

知ってて
助けたのよ

…うん…
優しい妖怪の
フリをして

あなたを
攫ったの



乱暴しとる
やくざモンから
助けてやれ
なんだ…

あんときや
儂が小そうて
あんさんを…
その…



はいっ
いいですっ
…儂ならっ…

実は…
儂や昔小僧の
頃にあんさんを
見とるんだ…



なのには
あんなのは
ポロポロの
身体で

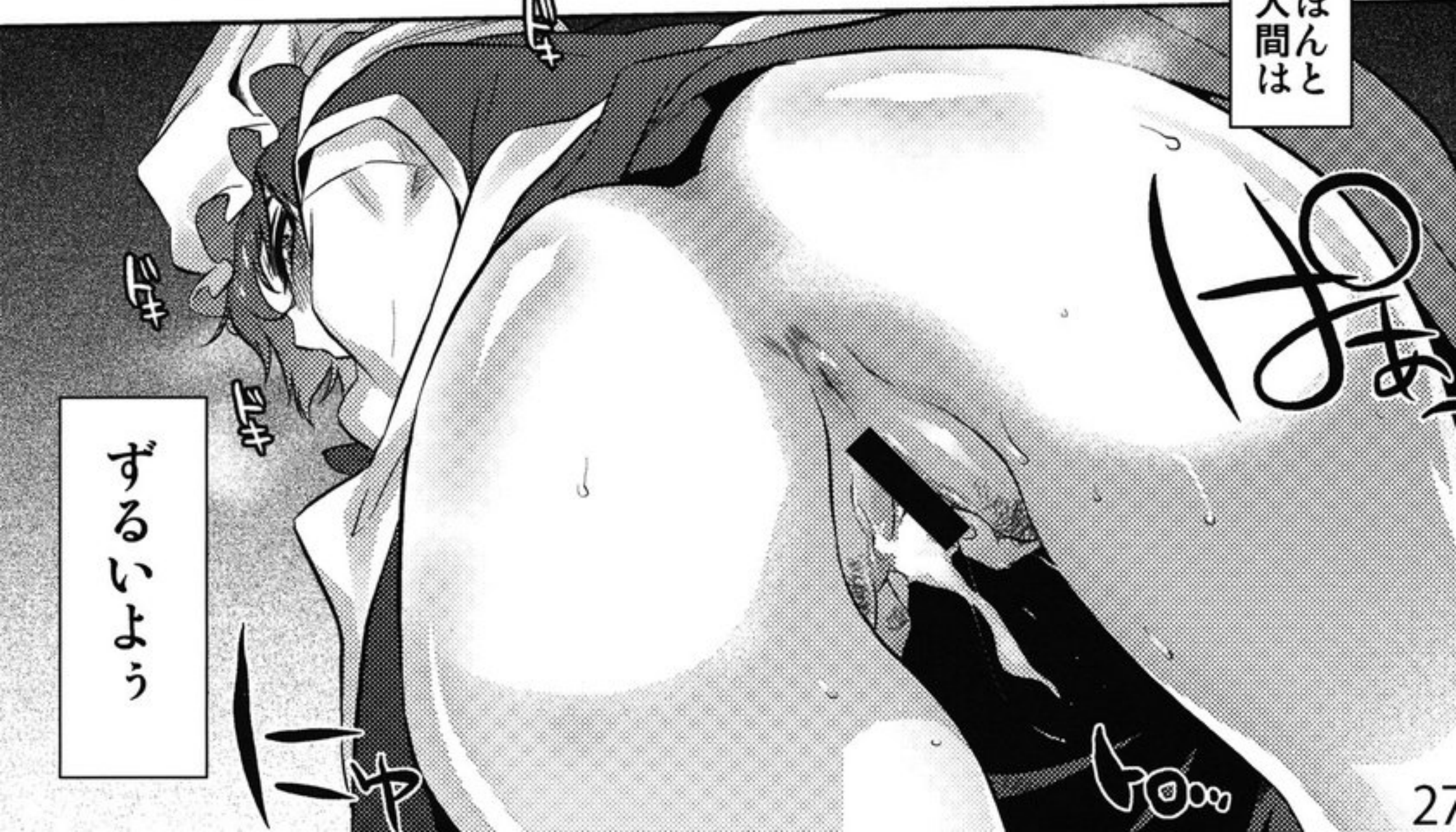
殴られたら
腫れた儂の
頬を冷やして
くれたんだて



きつと…
きつと
儂はあの時から
あんさんに
惚れとった

…いたなあ
むかあし
私を助けようと
してくれた
童つこがさ
ずっるい
なあ…

ほんと
人間は



ずるいよう



あああ
望んで
受け入れ
る
事が

これほど
犯される時
と
違うもの
なんて



あっ...
やあ...っ

ごめんなさい
みつとも...ない
でしょっ...

お尻...
おつき...て

そんな...っ
こと...っ
すっ...
やらし...

ネツバナネバの
子種ッ...

子宮に...っ
塗りつけて

内側から...
熱くて...

溶かしてっ

このまきっ



すっげえ…
指が埋もれて

やっ

あっ

はっ

気持ち良…

わ…たしねっ

乳に吞まれて
いるみたいだ…

…孕みおっつ

はっ

…恥ずか

だっ



射^だ精してっ

いっちばん
奥まで
押し付けてっ

の熱濃臭
おつくつて
い



違いねエ



とんだ甘ったれ
だつてのさ!!



めでたし
めでたし
じゃないか
ごちそうさま
だな

ふん

里に
返したのか
あいつ



……うん
眠らせてる
間にね



人に紛れて
嘘をついて
……じゃなく

雪女として
雪女のまま
愛されて共に
生きたい

でもそれじゃ
人間は生きて
いられない



私はね
贅沢なんだ
……と思う

惚れてたん
だろ？
お前も……
あいつもさあ



彼は物の怪の
自分を
受け入れて
くれたの

もう……十分
彼の人としての
生を蝕んでしまっ
くらいならいっそ



……チルノ
わたし

『優しい妖怪』は
やめるよ



……
自分で
言うない

原作:東方プロジェクト
上海アリス幻楽団

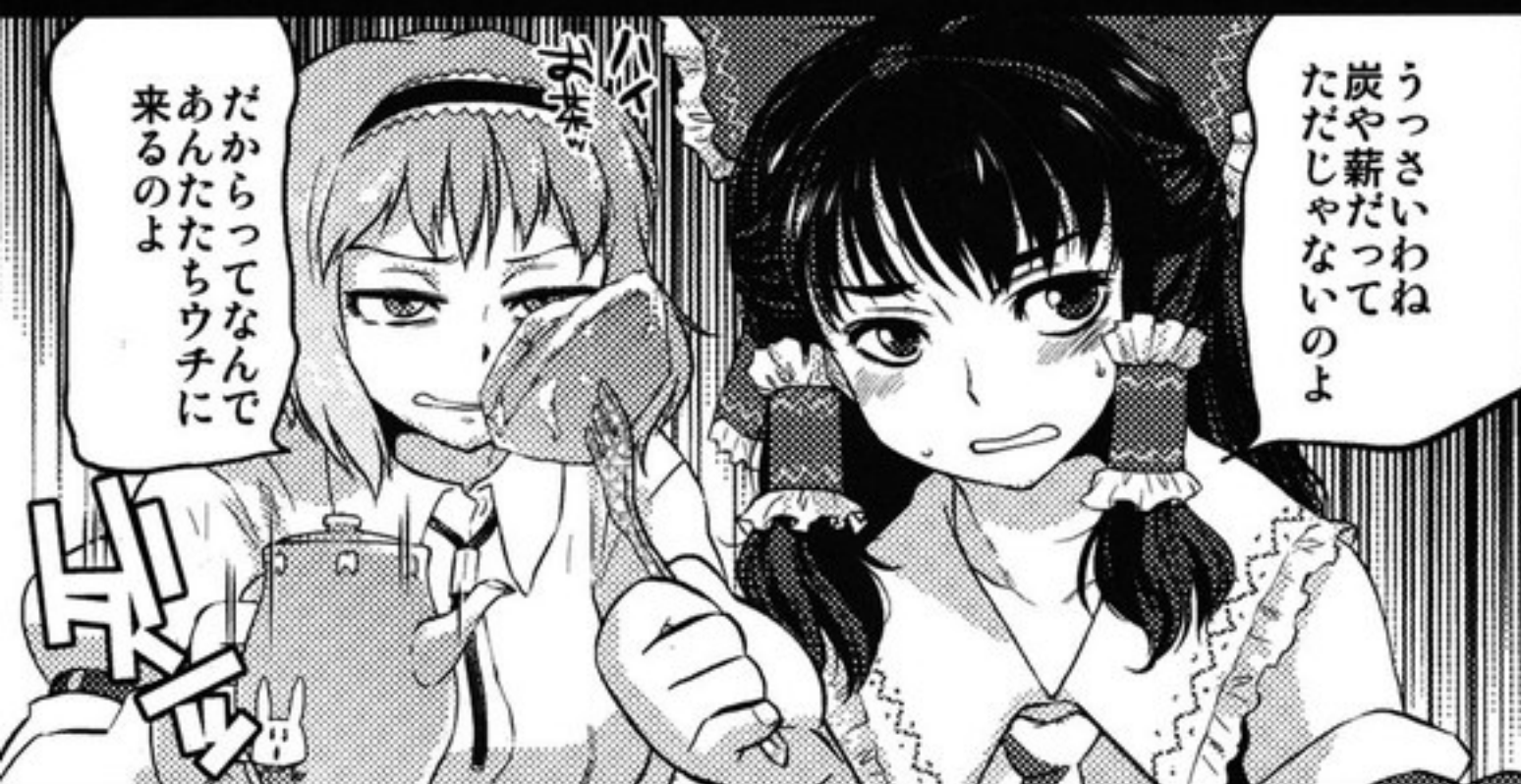


そういう
トコが

嫌いなんだ



霊夢ン所は
この時期
辛いんだよな



うっさいわね
炭や薪だつて
ただじゃないのよ

だからってなんで
あんたたちウチに
来るのよ

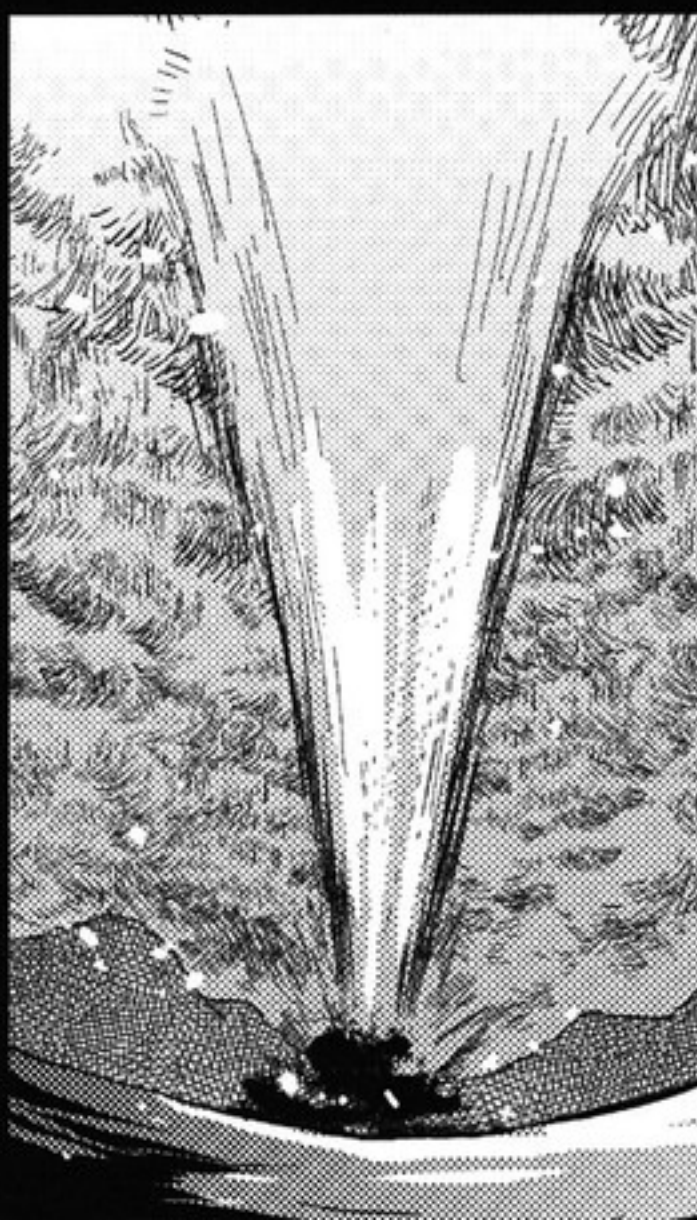
参考文献:東方求聞史紀



そういや
聞き忘れて
たな
チルノが出した
条件って
なんだったん
だらうなあ

?

チルノがレテイに
だした条件は
自分の作った氷穴の
主になって冬以外の
季節に冷気を供給
する事



出入り口を厚く
雪で固めた洞窟の
中は眠るレテイから
あふれた雪が吹雪と
なつて蓄積し

冬の訪れと共に
その力は頂点に
達して

厚い氷雪を
突き破り
『華吹』を
幻想郷に見せる

今年も冬が来た



チルノは
また幻想郷中を
飛び回り

レテイと同じように
しばし猛威を
振るうだろう



チルノが冬しか
湖から離れない
のは

レテイを冬しか
氷穴から出ない
ようにしたのは

作画:ともつか治臣

果たして
自分の力が
弱まる季節を
失わせる為か

それとも

制作:急行兎



雪華乃書

おしまい

雪華乃書

発行 急行兎
URL <http://rapidrabbit.jp/>
Pixiv <http://www.pixiv.net/member.php?id=230418>
発行者 ともつか治臣
印刷 (株)T-WAVE様

2011/12/31 初版発行

無断転載等を禁止します
乱丁などありましたら
ご連絡ください

ご愛読ありがとうございました。

あとがき

おつかれさまです。最後までお付き合いいただきありがとうございました。
急行兎代表者のともつか治臣です。ともかつではありません。

さてレティ本とかいいながら蓋を開けてみればどことなくチルノ本みたいになってしまってますが、ダブルヘッダー的なものと考えてください。

けっこうチルノ好きなんですよね。チルノ。
僕の中ではやはり最初に見た紅の学問的知識は乏しく思慮が浅いが
けして阿呆ではない印象が強く、さんすう教室や三月精系などはすでに脳内
チルノイメージが出来てしまっているから今回アホな要素はガン無視
しています。というのも、妖精というものが自然現象の具現化であるのならば
おそらくチルノ…というか妖精は幻想郷でも最古参であると脳内設定がなされて
おり、今作でもそういう扱いにさせていただきました。

逆にレティはなんとなく近代妖怪(いわゆる江戸時代など)の印象があり
若い妖怪としてチルノよりも若く幻想郷では若輩として描写しました。
文献によれば人間への友好度はレティの方が低く、危険性もチルノのほうが
低いとありましたが、今作はそれらが、そうではなかった時代と、そう人間に認識
されてしまったきっかけ的なものと考えていただければ、という言い訳。

妖精は0を1にする能力、妖怪は1を10にする能力が高い、という脳内イメージ
があつたりなかったりしますが、まあさして本編に影響はなかったあたり
設定厨になれそうでなれませんでした。うんこー！

ともあれ、やはり雪女は恋する女妖ということもあり、何年何十年に一度くらいの
確率で人恋しくなって目がハートマークになるくらい気軽に生きていって欲しいです。
冬場以外は鬱憤晴らしの対象というのが後でしっかり読み返したら
公式でも書かれていたのはご愛嬌。

さて、次回はなんのキャラでやるのかはわかりませんが、よろしければ
また手にとっていただければ幸いです。

急行兎代表者

ともつか治臣

原作 上海アリス幻楽団
東方プロジェクト

発行 急行兎

